

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1572400164		
法人名	医療法人 越南会		
事業所名	グループホーム「薬師」		
所在地	南魚沼市五日町204番地1 (電話) 025-776-3780		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	3月21日

【情報提供票より】(20年2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	10人、非常勤 0人、常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	720 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (20年2月現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2		5名	
要介護3	2名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.6 歳	最低	79 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五日町病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、田園地域にある住宅地と密接しており、豊かな自然環境に恵まれたところに設置されている。ホームのほかに、日帰り温泉を改造した通所介護事業所と小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、地域密着型のサービスとして、利用者のニーズに応じたきめ細かい在宅福祉サービスを提供している。駐車場の一角には薬師堂があり、利用者のみならず地域の方々にとっても心のより所となっている。窓からは美しい山々の景色を臨むことができる。ホームでは、利用者一人ひとりが生活の中でそれぞれ役割を担い、趣味など好きなことや家事作業などを行なって生き生きと過ごしており、利用者と職員が笑顔でともに暮らす様子がうかがえた。大規模施設では難しかった利用者一人ひとりの希望に応じた個別の関わりを、どうすれば実践できるかを職員間で検討しながら、日々の支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価結果を踏まえて、改善に取り組んだ。「地域との交流」では、ホーム便りを回覧板にはさむことを地域の区長にお願いして理解を得ることができ、地域に対する広報活動が行なわれていた。「利用者の個別記録」で水分量や食事量のチェックを行い、個々の健康状態の把握に活用している。「金銭管理」では、家族にも領収書控えを送付し、確認してもらうようにした。「緊急時の対応」については、実際の場面を想定した研修を行なっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価にあたり、外部評価項目一覧表をミーティングの時に読みあわせをしながら、職員間で評価の意義と理解を深めた。現在行われているケアを見直し、さらに良いものにする機会として活用している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を通じ、ホームの状況報告、利用者の様子、行事計画などを積極的に伝えながら、出席者からホームに対する意見を伺っている。ホームと委員の双方の対話を大切にしており、外部者からみたホームの客観的な様子を見つめなおす機会となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族に対して電話連絡や手紙を用いて日々の利用者の様子を伝えている。また、家族の面会時に利用者の心身の様子を担当職員が口頭で伝え、ホームに対する家族の意見を吸い上げようとするなど、今まで以上に意見の集約を行えるように心掛けている。しかし、家族からの意見は、なかなか事業所へは上がってきていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が地域住民として暮せるように、地区の自治会に加入し、ホームとして自治会費も納入している。散歩に出かけた時には、利用者や職員が積極的に挨拶を行い、地域住民と関わるよう努めているが、地域住民と顔なじみの関係になるまでには至っていない。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、平成19年度にホーム職員で話し合い、ホーム独自の理念を作成した。ここには地域密着型サービスとしての考えも含まれており、玄関・リビングに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念に基づき、職員が提供するケアの実践のために、職員間での話し合いを行なった。話し合いを通じて職員間での理念の共有化が図られ、本人のペースや意欲、意向を尊重した個別的な対応が実践されている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	ホームの広報紙に掲載し、家族に配布したり、行政の窓口を広報紙を置かせてもらい、理念の浸透に取り組んだ。広報紙は年4回発行され、回覧板で地域に回してもらい、ホームや利用者の様子を伝えていく。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域住民としてすごせるように、地区の自治会に加入し、事業所として自治会費も納入している。地域へ散歩に出た時には、地域の方に対して積極的に挨拶を行っている。		まだ地域の住民と顔なじみの関係には至っておらず、地域行事や自治会総会へ出席するなどの取り組みを通じて、地域の一員としてのさらなる交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価では、管理者・職員共にサービス評価の意義を理解し、ホーム全体のレベルアップを目指した視点を大切にして自己評価を実施した。前回評価での改善課題についても計画的に改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況や利用者の様子、行事計画等などについて報告し、出席者から意見を伺っている。ホームと委員の双方の対話を大切にしており、ホームを客観的に見つめなおす機会となっている。		運営推進会議の会議録は、きちんと整備されており、議事録は家族に対しても送付されていた。今後さらに、会議で自己評価結果などを取り上げて意見をもらったり、会議の議事録を閲覧できるようにするなどして、さらなる活用を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域密着型サービス担当者とは、看取り介護や実践研修の体制等、ホームで課題となっていることを質問して助言をもらうなど、日頃から連携をとっている。また、市の主催により、地域密着型サービス事業所の意見交換会も行われた。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は、高齢者虐待防止について認識しており、どのようなことが虐待にあたるのかを理解し、支援にあたっている。		虐待に関する研修は、書面の回覧・配布による自己学習が主であった。職員は虐待に対してきちんと認識しているが、今後はホームでの研修会を実施するなどして、高齢者虐待に関する理解をより深めていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、必要時に電話連絡で利用者の状況報告を行うほか、毎月職員が手紙を書き、写真を添えて利用者の様子や健康状態を伝えている。金銭管理についても、領収書を出納帳に添付して家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、担当職員が利用者の心身の様子を伝え、意見を吸い上げるよう努めている。職員一人ひとりが家族に対して連絡を取りながら、今まで以上に意見の集約を行えるように心がけている。		面会や連絡の少ない家族に対してのアプローチが十分ではない。直接事業所には言いにくい場合もあるという家族の立場も考慮し、これまで以上に家族の意見や思いをくみ上げられるよう、さらなる取り組みを期待したい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームで発生した課題については、職員が計画作成担当者に状況報告を行なって不安な点を相談したり、改善策について助言を受けている。ホームでは、職員の意見を汲み上げ、課題解決や改善に活かされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動が利用者には大きな影響を与えることを理解しており、職員の異動は極力控えている。新しい職員が来た際は、他の職員と一緒に利用者に関わることでスムーズに関係づくりができるようにし、利用者の不安軽減に努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人で統一されたマニュアルを中心にきちんと整備されている。感染症対策や緊急対応、非常災害などのマニュアルはクリアケースに入れられ、必要時には職員がすぐに確認できるようになっている。		今後、ホームの基礎的なケアマニュアルの整備などを通じて、職員のケアに対するさらなる意識向上に活用してほしい。現在あるマニュアルに関しても、定期的な見直しを継続してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、管理的立場の職員が他の職員に助言や指導を行なっている。外部研修に出席した時には、出席した職員が復命書を作成して回覧したり、資料を配布するなどして、他の職員にも内容を周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域のグループホーム連絡協議会が設立されており、職員が出席している。勉強会の開催や情報交換など、認知症ケアの質の向上を目指して相互に研鑽している。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が不安に感じたことなどは、同僚の職員同士、また、計画作成担当者が中心となって話を聞き、不安とストレスの軽減につなげている。利用者への対応に関する悩みに対しては、即座に検討を行い、対応している。職場の人間関係は良好であり、自由に意見を出し合える信頼関係ができています。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを利用するにあたり、可能な限り家族等から見学に来てもらい、雰囲気を知ってもらえるようにしている。入居後は、家族から得た情報や本人との関わりの中で出てきた要望や意見等に基づいて、その人らしさを大切にされた関わりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の昔の経験を踏まえて、ぼたもちやちまきの作りなど利用者自身が活躍できる場面を作り、職員が教わっている。利用者を人生の大先輩と考え、共に地域で生活していくという姿勢を大切にされた関係づくりが行われている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームと在宅との関係を継続させていくために、家族の協力が大切である事を事前に説明している。利用者の強い帰宅希望に対しては、家族に現状報告を行うとともに自宅への訪問も支援し、家族と協力して対応している。必要に応じては家族に面会を働きかけるなど、利用者本人のより良い生活を共に支える関係づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関わる際は傾聴の姿勢を大切にし、本人の思いや意向の把握に努めている。帰宅希望の強い利用者に対しても思いを否定せず、家族と一緒に良い対応方法を検討しながら、利用者と職員と一緒に自宅に訪問するなど、満足できるような対応が行われている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者の生活歴を聞き取り、ホームでの対応方法を検討している。入居後もアセスメントにより生活歴をきちんと確認し、利用者への支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって利用者から要望を伺うと、ほとんどの方が「今のままでいい」と言われるが、日々の生活の中での利用者の様子を詳細に記録し、希望やニーズを把握・共有して介護計画作成に活かしている。面会時などに家族からも意見を聞いている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を3ヶ月とし、面会時等に家族にも要望を聞きながら見直しをしている。利用者の状況変化や課題発生時には、その都度対応方法を検討し、対応策は介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて外出を積極的に行ったり、自宅訪問を支援したりしている。また、利用者の友人が併設施設を利用されており、交流の場が持てるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療病院やかかりつけ医に、定期的な受診できるよう支援している。在宅時からのかかりつけ医との関係を大切にしている。医療機関へホームでの生活の様子を伝えるとともに、家族からの情報を得て職員間で共有し、健康管理に活かしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状回復の見込みがない場合や終末期などの対応はホームでは難しく、行なっていないことを、入居契約時に本人・家族に説明している。入院した場合は、その後どのような対応を行っていくか話し合い、説明している。重度化した場合や終末期の利用者の移行先については、法人内の病院、介護老人保健施設との調整を行ない、法人として支援する体制ができています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への職員の声かけは穏やかであり、優しい言葉づかいである。入浴や排泄への対応も、プライバシーに配慮してさりげなく丁寧であった。利用者の個人情報は共有スペースには置かず、職員のみが閲覧できる場所にきちんと管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、それにとらわれず、利用者の希望に応じて外出や買い物に出かけるなど、利用者のペースを大切にゆったりとした生活を支援している。飲酒をされる利用者に対しては、職員も話につき合い、楽しい時間を共有している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、後片付けを利用者と職員が一緒に行っている。食事でも利用者職員と一緒に食べており、和やかな雰囲気づくりがされている。日々の会話の中から、ホームでの暮らしについて本人の希望やできそうなことを把握し、活動に活かしている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに応じてリハビリパンツやパットなども適宜使用しながら、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。排泄後は、職員がさりげなく居室に誘い、排便の有無等を確認している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜から土曜日までは毎日、利用者の希望に応じて入浴できる体制がとられている。利用者一人ひとりの体調や気分、希望に応じて、午前・午後どちらでも入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付けなどの役割や、入居前から行なっていた畑仕事等、やりがいを持って行えるよう支援している。気晴らしとして外出の時に買い物を働きかけたり、写真・週刊誌などで利用者の好きな話題を提供しながら会話のきっかけにするなど、楽しみごとを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雪深い地域のため冬期間は外出する機会が必然的に少なくなるが、ノルディックスキー大会の見学などに可能な限り出かけている。利用者の希望に応じて菊祭りに出かけたり、毎月の利用者の誕生日には外食ツアーを実施するなど、積極的に外出を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは身体拘束を行わないことを明示している。法人本部による研修やマニュアル等で、職員に周知している。また、市が開催した研修会にも参加し、認識を深めている。		身体拘束に関して、ホームでのケアで起こり得る場面や状況を想定した研修など、法人本部主催のものだけでなくホーム独自の研修機会を持つなどし、よりいっそう理解を深めていくことを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは、日中玄関の鍵をかけておらず、誰もが自由に入出入りすることができる。外出希望のある利用者については、職員が見守りしながら対応している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書、事故報告書がきちんと整備され、原因・対応策の検討に活かしている。事故が発生した次の日には、職員全員に事故内容と対応策の周知がなされ、再発防止に努めている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	1年に1回、ホームで救急法の研修を行なっている。その他、万一の時の対応を想定した訓練も行なっており、緊急時に備えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	ホームの前にある駐車場が地域の避難場所になっている。地域の避難訓練は早期に行われ、利用者と職員は人員体制の都合で参加できないが、避難訓練を利用者と職員が見学することにより、災害の意識啓発となっている。ホームでは災害対策のマニュアルが作成されているほか、年2回の災害対策訓練を利用者も一緒に実施しており、また、地域の区長に対して緊急時の対応について協力体制の依頼が行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を大切にしながら、栄養のバランスに配慮した食事の提供を行っている。また、利用者の体調変化が見られた際は食事・水分摂取量の記録を確認し、健康状態の把握に努めている。水分量は一日1000ccから、1500ccを目安に摂取していただけるよう声をかけ、職員間で情報共有を行ない一人ひとりに応じて支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの採光性は良く、自然な明るさであり心地よく過ごせる環境となっている。共有スペースには日々の写真が掲示され、利用者や、家族等来訪者の目を楽しませている。トイレや浴室には利用者が使いやすいように手すりが設置されている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのものや使い慣れたものを居室に持ち込んでもらえるよう、本人・家族に働きかけている。使い慣れた椅子が持ち込まれていたり。壁には利用者の若い頃の写真が飾られるなど、それぞれに合わせて安心して過ごせる空間づくりがされている。		